

P7 症例報告：口蓋底付近に水平埋伏した上顎左側犬歯の牽引による萌出誘導

A retraction case of horizontally impacted upper left canine near the nasal floor.

○中尾哲之、麻生郁子

Tetsuyuki Nakao Ikuko Aso

なかお小児歯科

Nakao Dental Clinic for Children

永久歯の埋伏は、上顎中切歯、犬歯でよく見かける。犬歯の場合、女児に多く、遅い時期に発現する。埋伏したままで放置していると、隣接歯の歯根を吸収させたり、異所萌出したり、そのままだつたりで歯列咬合に悪影響を及ぼすことが考えられる。出来るだけ早く原因を取り除き、萌出誘導を行って正しい場所に生えさせる必要がある。

犬歯の埋伏は、片側性に高率で出現することから、異常を診断する上で口腔内やレントゲン写真での診査で左右差を比較することが重要である。埋伏している犬歯の位置、方向、隣在歯との関係などを三次元的に確認しなければならない。レントゲンはオクルーザル、パントモの他に CT 画像を加えることにより正確な診断を行うことが出来る。

今回、口蓋底付近に水平方向に埋伏した上顎左側犬歯を開窓、牽引することにより、正しい方向に誘導し、本来の位置に萌出させることができたので紹介する。患児は1歳時に新患で来院、その後、定期健診を繰り返し来院されていた。11歳3ヶ月時に来院された時、3の埋伏を発見する。3は既に萌出しており、明らかに左右差が現われていた。埋伏3は位置的には口蓋底付近にあり、歯冠を前方に向け、犬歯部から小白歯部に亘っていたが、歯根は約2/3程度形成されていた。左上はCDEのままであり、未萌出の4は歯根が近心方向に向いており、その根尖付近に3の歯冠が存在していた。